

CO2排出量の算定(3)

基本的な考え方

「GHG排出量の算定方法ガイドライン」に沿った算定レベルの設定

- ・ オフセット主体： 国際スポーツイベントの組織委員会(自治体に準じる)
- ・ オフセット対象： 国際スポーツイベント
- ・ 算定レベル： 原則レベル₂以上を目指す
- ・ 活動量： 対象施設のエネルギー使用量を把握し、対象期間や人数等で案分
- ・ 排出係数： 原則、標準値を用いる。ただし、電力については地域の電力会社の公表値

活動量 プレ大会(2008年2月)の活動量を把握し、本大会の実績値を算定する。

■リステル猪苗代(宿泊施設として季節変動が大きいいため開催月の消費量を把握して算定)

- ・ 電力量： 原則、設備毎のメータにより把握し、開催日数や利用人数などにより案分
- ・ 重油： 貯油タンクのメータにより把握し、開催日数や利用人数などにより案分
- ・ LPG： 設備毎のメータにより把握し、開催日数や利用人数などで案分
- ・ 灯油・ガソリン・軽油： 対象設備での使用記録により開催期間の消費量を把握

■他の施設(猪苗代スキー場中央、セレモニー会場、アルツ磐梯など)

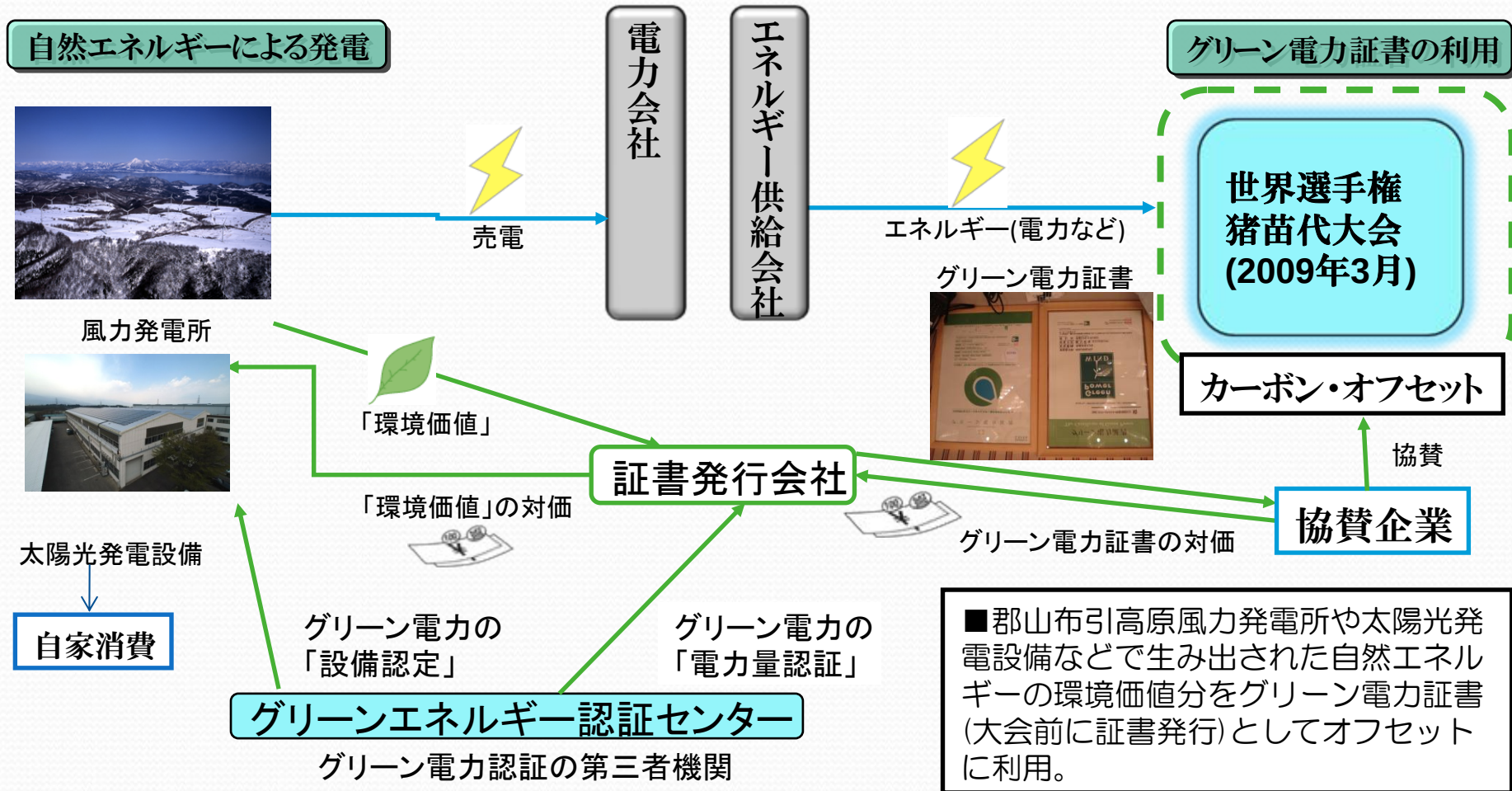
- ・ 電力量： 電力会社の伝票により把握し、開催日数や利用人数などで案分
- ・ 重油・灯油・軽油： 購入伝票などにより把握し、開催日数や利用人数などで案分

■シャトルバス

- ・ 軽油： 開催期間中の走行距離を把握し、標準的な燃費より推計

グリーン電力証書によるカーボン・オフセット

- ・大会期間中の対象施設のCO₂排出量をグリーン電力証書(約60万kWh)によりオフセット。
- ・オフセット時のグリーン電力証書のVER化、クレジットの無効化手続きは制度化途上。



クレジット(グリーン電力証書)の調達

□風力発電によるグリーン電力証書

- ◆ 発電所: 郡山布引高原風力発電所(福島県郡山市)
- ◆ 発電所の規模: 出力6.6万kW(2千kW×33基)
- ◆ クレジット発生(発電)時期: 2008年12月
- ◆ クレジット発生量: 60万kWh(CO₂約260トン相当)
- ◆ 証書発行事業者: 日本自然エネルギー(株)
- ◆ グリーン電力証書の発行時期: 2009年2月18日

□太陽光発電によるグリーン電力証書

- ◆ 発電所: 塩尻鉄工株式会社(長野県塩尻市)
- ◆ 発電所の規模: 出力90kW
- ◆ クレジット発生(発電)時期: 2008年3月~11月
- ◆ クレジット発生量: 1000kWh
- ◆ 証書発行事業者: (株)自然エネルギー・コム



クレジット(グリーン電力証書)の扱い

● CO₂換算係数の考え方

- 東北電力の2007年度の公表実績値(需要端)を使用: 0.473 kg-CO₂/kWh
- 「カーボン・オフセットに用いられるVERの認証基準に関する検討会」において検討中
 - 例1: 発電所が立地(売電)している電気事業者の排出係数(公開された実績値)
 - 例2: 全電源平均をベースとして全国で一律の排出係数を定義(例: 0.555 kg-CO₂/kWh)
 - 例3: 火力平均での排出係数を定義

● VER(Verified Emission Reduction)認証の手続き

- 「カーボン・オフセットに用いられるVERの認証基準に関する検討会」における方法論の検討結果により、「グリーン電力証書」がプログラム認証される方向で検討中。
 - プロジェクトや削減量の認証手続きは、気候変動対策認証センター(CCCCJ)とグリーンエネルギー認証センターが連携する方向

● 無効化の手続き

- 発行されたグリーン電力証書の認証番号は、グリーンエネルギー認証センターの管理簿において管理
- グリーン電力証書の発行と取扱は、証書発行会社が管理(現状)
- 証書管理の厳格性をグリーンエネルギー認証センターの「グリーン電力証書の管理の厳格性確保等に関する検討会」において検討中(3月末に運営委員会において承認)

普及・啓発の実施

大会前(2008年10月～2009年2月)

- 記者発表(プレスリリース)の実施(10/21):新聞記事
- ラジオ放送「アース・コンシャス」出演(11/11)
- 大会Webサイトへのニュースリリース掲載(12月)
- エコプロへの出展(J-COFブース):12月11日～13日
- ふくしま環境エネルギーフェアへの出展:12月20,21日
- 新聞広告掲載(地元地方紙2社):2月20日付

大会時(2009年3月2日～8日)

- カーボン・オフセット事業の取組みを会場内の看板などを使って広報
- 大会参加選手からのメッセージを発信し、地球温暖化対策への取組をアピール(開会式でのマイバック贈呈式)
- 大会会場でのチーム・マイナス6%への参加募集
- グリーン電力の普及をアピール(1億人のグリーンパワーキャンペーン)

大会後(2009年4月予定)

- Webサイトで大会期間のカーボン・オフセットの実績を報告



モデル性と今後の展開

モデル性

- スキーの**世界選手権大会(イベント)全体**を**グリーン電力証書**でオフセットし、カーボンニュートラルを目指した事例としてモデル性が高い(これまでも野球やサッカーの試合で使用電力をグリーン電力として一部をオフセットした事例はあった)
- 地球温暖化の影響を受けやすい**ウィンタースポーツの世界大会**において、カーボン・オフセットを行うことにより、**国内だけではなく、FIS(国際スキー連盟)**などを通じて**国際的なアピールの輪**を広げることができる。
- グリーン電力証書を使ったカーボン・オフセットの仕組みを整備することにより、普及の遅れている**日本国内の自然エネルギー**の普及を促進する。

今後の展開

- 本モデル事業はFIS(国際スキー連盟)等から高い評価を受けており、今後の各種大会や他の国際スポーツイベントなどでのカーボン・オフセットの取組みが期待できる。
- グリーン電力証書や今後制度化されるグリーン熱証書のCO₂価値認証基準や無効化の仕組みを整えることにより、カーボン・オフセットのクレジットとしてさらに普及が期待できる。
- カーボン・オフセットと他の普及啓発活動などを組み合わせることにより、地球温暖化防止の取組みを、より多くの団体や人々と地域を巻き込んだ活動にすることができる。